

活動報告

団体名	NPO 法人アレルギーを考える母の会
活動名	被災地のアレルギー患者（児）をサポートする体制をつくる事業
活動期間	2016年4月～2017年9月
活動の成果	<p>喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどアレルギー疾患の患者（児）は避難所などで配慮が必要な人とみなされないことが多い。当会の活動は被災者にかかわる機会が多い保健師、栄養士などに理解、取り組みを進めていただくためにアレルギーに関する資料や研修の機会を提供する活動に取り組んでいる。活動は東日本大震災被災地での経験を踏まえ、</p> <p>①被災した方々にとっては、日ごろ身近にいる人による支援が最も安心できる ②そうした支援に当たる被災地域の専門職の方々も被災者であり、職員不足が続く中で、アレルギー疾患についての情報を得る機会や研修に参加することが難しい</p> <p>などの視点を踏まえ、熊本地震被災地でも被災自治体の保健師、栄養士、助産師、学校や保育所の教職員など専門職の方々への情報提供、専門医などが担当する研修機会の提供に取り組んだ。活動はまだ途上ではあるが、本事業では被災した10以上の自治体の被災者行政担当、保健センター、保育担当部門、教育委員会などにアレルギー疾患に関する啓発資料など情報を届けて患者（児）サポートの充実に寄与したほか、アレルギー専門医などが講師を務める研修会を4回開催し582人が参加した。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどアレルギー疾患の患者（児）は、災害時の避難所などでは治療や生活上の課題が集中して顕在化します。一方で患者（児）は避難所などで配慮が必要な人とみなされないことも多く、当会の活動は、東日本大震災被災地での経験を踏まえ、被災者にかかわる機会が多い保健師、栄養士などに理解、取り組みを進めていただくためにアレルギーに関する資料や研修の機会を提供する活動に取り組んでいます。物を届ける、イベントを行うなど目に見える取り組みとは異なり成果が目に見える活動ではないことから、活動に対する後押しを得にくい実情もあります。そうした事情をご理解いただき支援をいただいたことに感謝を申し上げます。被災時の取り組みは半面、平時の地域の取り組みの好事例になる可能性もあり、引き続き取り組んでいくことにしています。</p>

(活動のようす)

